

1 3 美唄消防 1 0 0 年の歴史

明治 3 6 年

1 1 月 私設沼貝消防組設立 初代組頭 鈴木武史郎
乙号型腕用ポンプ 1 台

明治 3 7 年

1 0 月 私設沼貝消防組を公立沼貝消防組に改組 組員 3 6 名

大正 4 年

8 月 私設三菱美唄消防組が発足 組員不明 腕用ポンプ 4 台

大正 5 年

5 月 私設美唄炭山消防組設立 組員 3 0 名 腕用ポンプ 1 台

大正 6 年

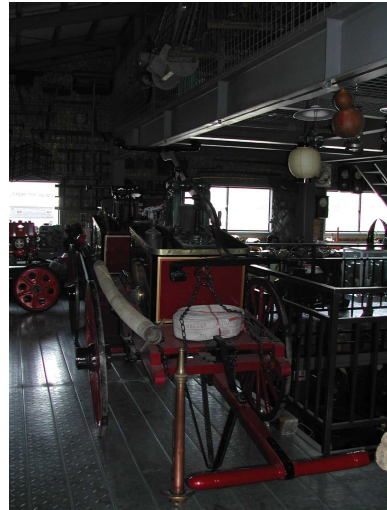
3 月 私設美唄炭山消防組を公設我路
消防組に改組

8 月 沼貝消防組に部制を設ける。

第 1 部 沼貝市街地

第 2 部 峰延市街地

部員 2 8 名



腕用ポンプ

大正 9 年

1 2 月 沼貝消防組第 3 部発足

第 3 部 茶志内市街地 部員 1 3 名 7 号腕用ポンプ 1 台

大正 1 1 年

3 月 沼貝消防組第 4 部発足

第 4 部 沼貝市街地 部員 2 6 名 腕用ポンプ 1 台

大正 1 5 年

6 月 町政施行により美唄町となり沼貝消防組を美唄消防組に改称する。

世帯数 6 , 1 4 1 世帯・人口 3 2 , 2 4 0 人

昭和 2 年

9 月 美唄消防組第 2 部が独立し峰延消防組設立 組員 2 5 名

美唄消防組第 4 部を第 2 部に改称

美唄消防組第4部発足

第4部 美唄市街地 部員25名 腕用ポンプ1台

昭和3年

8月 私設三井美唄消防組発足 組員50名 手挽ガソリンポンプ 2台
腕用ポンプ 2台

昭和4年

5月 我路市街地大火 焼失204戸

昭和9年

6月 美唄消防組第5部発足

第5部 美唄市街地 部員25名

腕用ポンプ1台



昭和5年 光珠内

9月 美唄消防組本部庁舎を現在の大通西1条南1丁目に木造2階建て新築

10月 美唄消防組第5代組頭 故海老名広吉氏の遺志により、庁舎横に鉄骨の火の見望楼81尺(24.5m)1基建造

昭和11年

5月 消防ポンプ自動車1台購入 美唄消防組に配備

昭和12年

5月 美唄市街地大火

焼失372戸、損害額180万円、罹災者1,900名



昭和12年 美唄大火

昭和 1 3 年

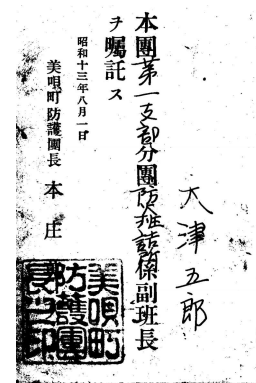
- 4 月 消防団常備 2 名配備
- 1 0 月 美唄市街地の大火で美唄消防組本部庁舎焼失したため、同敷地に同本部庁舎新築木造モルタル 2 階建延 3 6 3 m²



昭和 1 3 年築 消防庁舎

昭和 1 4 年

- 4 月 警防団令（勅令）施行 美唄消防組を美唄警防団として発足し各消防組を再編成する。1 本部 1 5 分団 9 2 7 名炭鉱地区に、三井美唄警防団・三菱美唄警防団が同時に発足



昭和 1 3 年 辞令

昭和 1 8 年

- 4 月 美唄警防団 1 5 分団を統廃合し 1 1 分団に再編成

昭和 1 9 年

- 4 月 消防団常備 7 名増員（計 9 名） 第 2 分団に 4 名配備

昭和 2 2 年

- 4 月 消防団令（勅令）施行 各警防団を消防団に改称
- 8 月 美唄消防団 6 分団 団員 2 9 9 名
- 我路地区は、我路消防団発足 団員 7 5 名
- 1 2 月 消防組織法（法律第 2 2 6 号）公布され消防組織は、自治体消防として独立する。

昭和 2 3 年

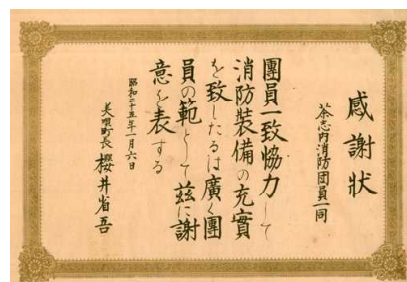
- 4 月 望楼監視勤務開始
- 7 月 消防法（法律第 1 8 6 号）公布
- 1 0 月 水槽付消防ポンプ自動車購入 美唄消防団に配備

昭和 2 4 年

- 2 月 美唄・南美唄・峰延・茶志内・光珠内・沼南・三井美唄・三菱美唄・三井新美唄・三菱茶志内・我路の 1 1 団編成となり団員数は 1, 0 2

4 名となる。

消防装備	消防ポンプ自動車	1 1 台
	水槽付消防ポンプ自動車	1 台
	手びきガソリンポンプ	1 2 台
	腕用ポンプ	1 6 台
	防火水槽	6 3 基
	消火栓	3 9 5 基



昭和25年 感謝状

昭和25年

4 月 市制施行により美唄市となる。

世帯数 1 6 , 3 5 6 世帯、人口 8 7 , 0 9 5 人

消防団常備が美唄市消防本部・消防署として発足

消防職員定員 3 0 名 初代消防長 前田富蔵

初代署長 深尾三郎

9 月 北海道消防ポンプ操法競技大会に初出場

昭和26年

2 月 茶志内消防団 中村分団発足 団員 2 0 名

3 月 三井新美唄消防団解団 同地域を三井美唄消防団管轄区域に編入

美唄消防 1 0 団 1 , 0 5 5 名

4 月 消防職員 定員 3 8 名

茶志内出張所開設 職員 2 名配置

7 月 北海道消防ポンプ操法競技大会出場 B 級第 3 位入賞

昭和27年

4 月 消防職員 定員 4 0 名

6 月 峰延機関員出張所開設 職員 1 名配置

7 月 美唄消防団創立 5 0 周年記念式典举行

9 月 南美唄機関員出張所開設 職員 1 名配置



昭和27年50周年演習



昭和27年 自転車引



昭和27年50周年記念仮装

昭和28年

4月 消防職員 定員45名

美唄市街地大火 焼失41戸 損害額2,620万円

昭和29年

4月 第一機関員出張所開設 職員1名配置

昭和31年

4月 美唄消防4団に再編成

美唄消防団 11分団 273名

三菱美唄消防団 3分団 325名

三井美唄消防団 120名

三菱茶志内消防団 50名

6月 旭機関員出張所開設 職員1名配置

7月 美唄市消防火災出動要綱制定

11月 美唄消防団我路分団発足 団員60名

昭和32年

7月 茶志内出張所を茶志内機関員出張所に改称 職員1名配置

10月 沼南分団詰所新築

12月 美唄消防団上美唄分団発足

団員22名

昭和33年

4月 消防職員 定員48名

昭和35年

8月 日本損害保険協会から、普通消防ポンプ自動車の寄贈を受け署に配備



昭和29年 協会表彰



昭和30年望楼から



昭和32年 管轄区域

昭和36年

8月 美唄消防団東明分団発足 団員30名

9月 東明機関員出張所開設 職員1名配置
消防無線固定局開設 基地局～1
移動局～2

昭和38年

2月 美唄市火災予防条例（条例1号）公布

昭和39年

4月 消防職員 定員55名

三井美唄消防団解団 美唄消防団に編入
し三井分団発足 団員38名
三井出張所開設 職員4名配置

5月 我路分遣所を出張所に改称

昭和40年

10月 三菱美唄消防団を東美唄消防団に改称 団員180名

11月 東美唄出張所開設 職員2名配置

昭和41年

8月 集中豪雨（降水量 249mm） 死傷者4名

家屋、河川、道路、橋梁の損壊 被害総額23億8,240万円

昭和42年

3月 三菱茶志内消防団解団

同地域を美唄消防団茶志内分団管轄区域に編入

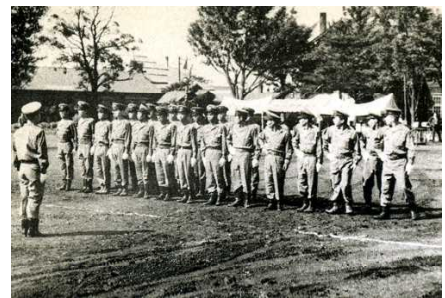
昭和41年8月豪雨の水防活動に対し、
美唄消防団が建設大臣表彰を受賞

9月 美唄市消防本部救急業務実施規定制定
救急業務開始

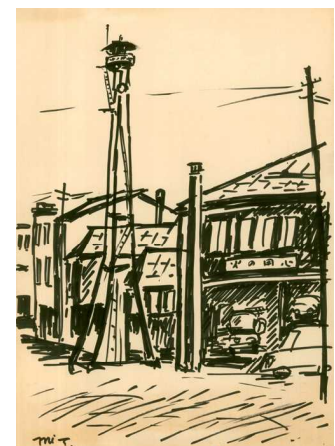
10月 美唄市消防団条例の一部改正
団員定員 665名とする。



昭和35年ポンプ操法



昭和35年規律訓練



昭和43年消防庁舎

昭和43年

3月 南美唄出張所・分団詰所新築
美唄市消防団条例の一部改正団員定員
を566名とする。

4月 三井分団を解団 同地域を南美唄分団
管轄区域に編入 三井出張所廃止

11月 救急車1台購入 署に配備



消防像

昭和45年

11月 日本損害保険協会から消防ポンプ自動車の寄贈を受け中央分団に配備

昭和46年

1月 寄宿舍火災（焼失59㎡） 焼死者10名、負傷者1名

2月 美唄市消防本部・署庁舎を現西1条北6丁目1番30号に新築する。
鉄筋コンクリート2階建 延1,058㎡
消防無線更新 基地局～1、移動局～5
望楼勤務廃止

7月 消防職員 定員58名



昭和46年築 消防庁舎



通信司令室

昭和47年

3月 川西栄三団長が消防庁長官功労章受賞

7月 東美唄消防団解団 同地域を美唄消防団我路分団管轄区域に編入

8月 東美唄消防団解団に伴い東美唄出張所廃止

10月 化学車1台購入 署に配備

相次ぐ炭鉱閉山のため一市一団となり、美唄市消防団と改称し設立
1団14分団 386名

昭和48年

- 2月 美唄市消防団が優良消防団として日本消防協会より表彰旗授与される。
- 4月 峰延機関員出張所を出張所に改称 職員3名配置
- 8月 北海道消防操法大会出場（中央分団）
- 10月 消防本部・署機構改革、消防本部2課4係・1署制とする。
第一機関員出張所・旭機関員出張所閉鎖

昭和49年

- 1月 出初式においてキヤリ行進を始める。
- 7月 日本船舶振興会から小型ポンプ付積載車の寄贈を受け進徳分団に配備
- 8月 光珠内分団詰所新築



昭和49年車両行進

昭和50年

- 4月 大型移動水槽車（10t）1台購入
署に配備
- 8月 台風6号集中豪雨（降水量200mm）
石狩川が越水したため市内の中小河川が氾濫
被害総額33億3,000万円
北海道救助技術指導会に初参加
空知信用金庫より救急車の寄贈を受け、署に配備（2台体制）



昭和49年キヤリ行進

昭和51年

- 2月 昭和50年8月 台風6号水防活動に対し、美唄市消防団が建設大臣表彰受賞
- 7月 我路分団解団、同地域を東明分団管轄区域に編入
- 10月 美唄市消防団条例及び規則一部改正
13分団 定員312名
- 12月 消防本部、署機構改革、消防本部3課6係・1署制とする。

昭和52年

10月 茶志内出張所・分団詰所新築

昭和53年

7月 北海道消防操法大会出場（峰延分団）

10月 15m級屈折はしご付消防ポンプ
自動車1台購入 署に配備
東明機関員出張所を出張所に改称
職員3名配置



昭和53年 北海道操法大会

昭和54年

6月 南美唄機関員出張所を出張所に改称 職員2名配置

10月 東明出張所・分団詰所新築

昭和55年

11月 署に通信一斉指令装置導入

12月 旭分団詰所新築



昭和54年 出初式

昭和56年

8月 集中豪雨（降水量426.8mm）

市内の中河川氾濫 被害総額41億5,700万円

9月 日本損害保険協会から救助工作車の寄贈を受け、署に配備

10月 消防無線更新 基地局～1、移動局～9、携帯～2
署に消防気象観測装置導入

11月 8月集中豪雨の水防活動により、美唄市消防団が建設大臣表彰受賞

昭和57年

7月 孫在永氏から災害救助用アルミボート3艘及び救命胴衣50着の寄贈を受ける。

9月 昭和56年8月集中豪雨の水防活動により、
美唄市消防団が内閣総理大臣表彰受賞
光珠内分団車更新（小型動力ポンプ積載車）



昭和57年内閣総理大臣賞

昭和58年

4月 第一分団詰所新築（福社会館に併設）

9月 美唄市消防団条例及び規則一部改正 13分団定員285名

東明分団車更新（消防ポンプ自動車C D - I）

1 2 月 進徳分団車更新（小型動力ポンプ積載車）

昭和59年

1 1 月 化学消防ポンプ自動車を購入（更新）署に配備

昭和60年

4 月 各出張所を分遣所に改称

1 0 月 旭分団車更新（消防ポンプ自動車C D - I）

1 1 月 上美唄分団詰所新築（福社会館に併設）

昭和61年

2 月 美唄市消防安全管理規程制定

9 月 進徳分団詰所新築

1 0 月 第一分団車更新（消防ポンプ自動車C D - I）



昭和62年

昭和60年 演習

1 1 月 北海道共済農業協同組合連合会から救急自動車1台の寄贈を受け、署に配備

1 2 月 中村分団詰所新築（中村地区コミュニティ消防センター）

昭和63年

2 月 中村分団車更新（小型動力ポンプ積載車）

4 月 消防本部・署機構改革

消防本部2課4係・1署6係制とする。

我路分遣所廃止、連絡所とする。

東明分団我路部廃止

9 月 北海道救急医療情報システム運用開始

1 2 月 大富分団詰所新築（大富地区コミュニティ消防センター）



昭和63年 茶志内雪像

平成元年

4 月 消防本部・署機構改革

消防本部2課5係・1署8係制とする。

1 2 月 中央分団車更新

（水槽付消防ポンプ自動車2, 000L）



昭和63年 キヤリ

平成 2 年

1 2 月 災害弱者緊急通報システム運用開始

峰延分遣所・分団詰所を新築し峰延地区コミュニティ消防センターとする。



平成 2 年 消防本部創立 4 0 周年

平成 3 年

4 月 北海道広域消防相互応援協定を締結

6 月 西美唄保育園幼年消防クラブを結成

平成 4 年

6 月 茶志内双葉保育園、進徳保育園幼年消防クラブを結成

7 月 峰延保育所、光珠内保育所、茶志内保育所、中村みのり保育所幼年消防クラブを結成

1 1 月 上美唄分団車更新（小型動力ポンプ積載車）
南美唄分遣所・分団詰所を新築し南美唄地区コミュニティ消防センターとする。

大坪喜代太氏からマイクロバスの寄贈を受け、「美消号」と命名する。



平成 4 年幼年消防クラブ結成式

美唄市名誉消防団員規程制定

平成 5 年

3 月 水槽付消防ポンプ自動車（6，500L）1 台購入 署に配備

1 0 月 大富分団車更新（小型動力ポンプ積載車）

平成 6 年

8 月 日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車（2，000L）の寄贈を受け峰延分団に配備

1 1 月 美唄市消防団キヤリ保存会結成

1 2 月 沼南分団車更新（小型動力ポンプ積載車）

平成 7 年

3 月 我路連絡所廃止

7 月 北海道消防操法訓練大会出場（上美唄分団 小型ポンプ操法の部）



平成 7 年北海道操法大会出場

平成 8 年

3 月 国道 1 2 号線拡幅工事に伴う、消防庁舎の増改築工事を完了する。

鉄筋コンクリート・一部鉄骨造り 2 階建 1, 8 9 0 . 0 2 m²

消防緊急通信指令施設 I 型・消防団緊急伝達システム導入

高規格救急自動車 1 台購入 4 月から運用開始する。

9 月 消防庁舎増改築に伴う、外溝整備工事が完了する。



平成 8 年 指令システム

1 1 月 消防団で女性消防団員 8 名採用

大坪喜代太氏から美唄市消防団キヤリ保存会に太鼓 5 張の寄贈を受け、「美消太鼓」と命名する。



平成 8 年 女性団員・美消太鼓

1 2 月 消防長の退職に伴い、1 2 月 1 9 日付で助役 遠藤徳次が消防長事務取扱となる。

平成 9 年

3 月 大坪喜代太団長が消防庁長官功労章受賞

4 月 機構改革により、1 署 1 0 係制及び東明・南美唄・峰延分遣所に所長を置く。

平成 1 0 年

2 月 3 0 m 級はしご付消防自動車 1 台購入
署に配備

1 1 月 美唄市消防団が優良消防団として、北海道より表彰旗授与される。

1 2 月 沼南分団詰所新築
(沼南地区コミュニティ消防センター)

平成 1 1 年

3 月 茶志内分遣所廃止

平成 1 2 年

1 月 南美唄分団車更新 (消防ポンプ自動車 C D - I)

4 月 有珠山噴火に伴う災害救助のため北海道広域消防相互応援協定によりポンプ隊 1 隊 5 名派遣する。

平成 1 3 年

3 月 救助工作車 (Ⅱ 型) 購入 署に配置



平成 1 0 年 はしご車

平成 1 4 年

- 3 月 美唄市消防本部、美唄市消防団、
消防庁長官より竿頭綬を授与される。
光珠内分団拓北部廃止

平成 1 5 年

- 2 月 茶志内分団車更新（消防ポンプ自動車 C D - I ）
7 月 大坪喜代太氏からマイクロバスの寄贈を受ける。
8 月 財団法人日本宝くじ協会から訓練指導者の寄贈を受ける。
1 0 月 北海道十勝沖地震に伴う苫小牧市出光興産株式会社北海道製油所で発生した屋外タンク火災に際し北海道広域消防相互応援協定によりポンプ隊 1 隊延べ 1 5 名派遣する。

平成 1 6 年

- 1 月 出光興産（株）北海道製油所で発生した屋外タンク火災に際し応援出動した功績にたいして北海道知事より感謝状、消防庁長官より褒状を授与される。



平成 1 5 年 北海道広域応援派遣隊



平成 1 5 年 北海道消防大会



平成 1 6 年 出初式